



ふるさと会よりご報告



会長 (高松市観光大使)

池田 克彦

26年度となり本会報も28号となりました。昨年はふるさと会の総会開催と瀬戸内国際芸術祭に参加

しました。松茸が全国的に不作でしたが、京都のマツタケ栽培の権威である吉村先生を塩江にお招きして、松茸山の診断と取組方法のご講演をお願いし今年の収穫に向けご指導をいただきました。さて早速ですが、香川県・高松市の広報等から地元の動きと会活動をご報告いたします。

① 県の一般会計当初予算が4355億9700万円。せとうち田園都市の創造に実現に向け、15の重点施策に財源を重点配分。1) 元気の出る香川づくり(台北線充実強化対策等事業・かがわ希少糖ホワイトバレープロジェクト・オリーブ産業強化プロジェクト等) 2) 安心できる香川づくり(県営ため池耐震化整備事業・交通死亡事故抑止総合対策・かがわ健やか子ども基金事業等) 3) 夢と希望あふれる香川づくり(瀬戸内海国立公園指定80周年記念事業・県立図書館サービス向上・四国八十八ヶ所霊場開創1200年事業等)等の事業が予算計上されている。

② 香川県情報誌から、瀬戸内海が昭和9年日本最初で国立公園に指定され今年80周年、最初の指定地の屋島・寒霞溪から3月より記念事業をスタート。〔瀬戸内海賊物語〕が映画化され5月から全国ロードショー。【さぬきうどん融資課(NHK高松放送開局70周年記念・香川発地域ドラマ)】がNHKBSプレミアム5月21日夜10時から放映、香川ゆかりの人が出演(石倉三郎・松本明子・藤澤恵麻・遠藤章造)。5月末から成田～高松便の格安航空チケットが昨年のLCCジェットスターに続きLCC春秋航空日本が就航。羽田～高松便JAL増便(ANAと合わせ1日3便)に高松～台北便が週4往復に増便。

③ 高松市観光振興計画が策定された。目標を実現するための3つの戦略を取決め。1) 観光都市のイメージを創出し地域間競争に勝つための誘客戦略。2) 魅力を再発見しみんなで情報発信して知名度を向上させる戦略。3) 地域特性をいかした受入環境形成と全体連携による受入戦略。水を大切にす街「高松市」みんなの水では、水源地周辺の豊かな自然を守り、水の大切さについて理解を深めるため、早明浦ダム周辺ボランティア清掃と塩江町では、しおのえの里山保全活動(3月植草・7月9月下草刈り・8月森林環境教育)クリーンウォーク in しおのえ(11月塩江の歴史や文化に触れながら道路沿いなど捨てられたゴミを収集)一般の方も参加可能。塩江コミュニティ協議会宛問い合わせ(TEL087-897-0137)

④ 12月市議会で塩江町選出の佐藤好邦議員が塩江地区にサテライト・オフィス誘致の一般質問。市答弁は、今後進めていく塩江ケーブルの光ファイバー化の進捗状況に応じ私有施設や空き家等の活用も視野に誘致に向けた具体的な方策を検討するとしています。

⑤ “都市の再生に向けて” 新春座談会で大西市長が

NPO しおのえ代表理事の藪内由佳さんと香大西成准教授と対談。人口減少・超高齢社会を迎える中、これから持続可能な町づくりはどうあるべきか。市は昨年10月高松市創造都市推進ビジョン取りまとめ、独創指向・世界指向・未来指向の基本戦略を掲げている。市長曰く、塩江地区は、農村型コミュニティと過疎地区と新しい仕組みでカバーする取り組みが上手くいっている。藪内代表は、着地型観光の体験プログラム作りを地域の人たちの協力を得ながら、高松の中での塩江のあり方を考え、新しいコミュニティをつくりながら、住んでよかった、来てよかったと思えるような町づくりの活動を続けたいと抱負を語っていました。

⑥ 高松市26年度一般会計1526億円・特別会計1034億円余・企業会計506億円余が決まった。一般会計は前年度比3.5%増、重点取組事業12項目128事業の約265億円計上。特に、1) 教育福祉の充実による、地域の未来を支える人づくり・健やかに暮らせる環境づくりの推進。2) 公共交通利用促進や美しいまちづくりを目指す多核連携型コンパクト・エコシティの推進。3) 都市ブランド力の強化と地域産業の活性化による、創造豊かな町づくり事業の推進。の視点から予算を重点配分。

⑦ 12月14日塩江中学井上校長と香川体育館で面談、県ハンドボール大会塩江中学を応援。ふるさと会役員会の忘年会(12月19日)新年会(2月26日)熊野重紀さん送別会(4月10日)を開催。4月19日市ヶ谷で開催された東京・別海ふるさと会総会に参加。

⑧ 今年2月元塩江町長であった中井弘氏が亡くなられお通夜に出向きご焼香させて戴き、ふるさと会から献花とお悔やみを申し上げた。享年85歳。ふるさと会を育てて戴き惜しまぬご支援を頂いた事に深く感謝申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。

特集 ふるさとのお夏

ふるさと会会員 池田 克彦

これまでふるさとの春や秋のテーマで特集を組みましたが、今回は、初夏を特集にしました。「ふるさとの初夏」なんとなく山川草木のこれからの動きを予感する言葉です。塩江の清流ならでの自然の中を蛍が飛び交い、耳を澄ますとカジカ蛙の鳴き声が聞こえてくる。初夏を彩る可憐な合歓の花。忙しく始まる田植え風景と新芽が一斉に若葉となり山々がキラキラ光る時期です。5月から6月にかけての初夏のイメージは懐かしいふるさとの原型風景です。遙か遠い子供時代のふるさとを思い出します。(安原高畑出身 神奈川県相模原市在住)

ふるさとの原風景



ふるさと会会員 藤嶋 秀機

その日は、梅雨の季節にしては快晴で、瀬戸内海の海上を飛んでいる飛行機(松山～東京便)から、讃岐平野がパノラマのように見えて、田植えが済んで、初夏のいよいよ(光量)

を増した陽光を反射して(鏡)をはめ込んだようにキラキラひかる、無数の(田んぼ)と(ため池)のパッチワークの中に、阿讃の山並みに見え隠れする(塩江の街)や(香東川の流れ)を探していました。初夏と言えば、子供の頃の50年以上も前の6月の(田植え)のことが頭に浮かびます。田植えは今よりずっと遅く、6月半ばだったように思います。(樺川はため池も少なく、川も小さくて空梅雨で水不足の年には7月にずれ込むことも稀にはあった)私の家は樺川の北内にあつて、5～6反歩の「棚田」の田んぼと7反歩ぐらいの畑(主力はたばこ)の農家でした。まだ耕運機などもなく、農作業は「牛」の動力に頼っていて、ほとんど「手作業」で、特に田植えや稲刈り時期は、隣近所の農家との共同作業と親戚の手伝いで行っていました。私ら子供達も学校の「農繁休暇」をもらって結構「頼り」にされていて牛の世話や、苗運びとか、弁当運びとか、おだてられながら頑張ってた。田植えが済んで暫らくして、田んぼ一面に、ようやく生えが揃った稲を見て、家のみんなは、秋の収穫に思いを馳せて田植えが終了した達成感と満足感にあふれているようでした。子供心にも「とても綺麗な」風景の時期で、初夏の清々しい気候に恵まれて、稲の葉先が「朝」には、夜中に吸い上げた水が「丸い水玉」になって朝日に輝いて「田んぼ一面・金色」になったこととか、「昼」には、真上からの光にチラチラと揺られて「濃いみどり色」だったことや、「雨の日」には「もや」に霞んで「灰色がかつたすみどり色」で、ずっと遙か向うの山まで続いていたことなど、素晴らしい景色が目に見えられます。今「永らく」都会に住んで、自分の生活や仕事に追われて思い出すことなかった、塩江の…初夏の…「ふるさとの原風景」…を…思い出させてもらっています。(塩江樺川出身 都内福生市在住)

ふるさとの思い出



ふるさと会会員 村上 和子

疎開していた旧高松市内より、父の里に住み21年。裏山や川遊び場に、春は母や妹達と土筆やワラビ取りに襟を取るの大変でしたが、あの玉子とじの美味しさは忘れません。子供達も小学校時代を高松で暮らした為か、安原の今は亡き、母や妹の思い出と共に土筆の玉子とじを懐かしく思っている様です。また空豆を叔母の畑に大きなビニール袋を持って沢山取り煮豆にし、お鍋一杯作り贅沢と思った事。乾燥空豆を買って自分味の醤油豆を作ったりします。夏は川で父の背中に乗って泳いだ事。ホテルも一杯いました。また校庭でチャンバラ映画も見ました。今では考えられない事でしょうね。秋は友人たちと裏山でコクバ(松の枯葉)を拾い風呂の焚きつけに、帰りに木の実を食べ、口中紫色にして、お互い大笑いしながら帰った事。秋の運動会は賑やかだった、生徒数も多かったし、素足で徒競争、あの行進曲が流れるとドキドキしたものです。冬、今より雪が一杯降っていました。学校の運動場では雪合戦や、雪だるまも作りました。私の

中で一番忘れられない事は、内場ダムが内場池だった頃。一日何本しかない一つ内行のバスを利用して、相栗峠を超え母の実家に行った事。歩いていて運よくトラックの荷台に乗せて貰えた時は嬉しくてしかし随分遠かった。今思えばよく行ったものだと思います。何時の時か台風で帰れなくなり学校を休む事となり、父の家に入れてもらえず近所の知り合いの家に行った事。父の言い分は何はともあれ学校を休んだと言う理由です。ふるさとの初夏は周り一面樹木が芽吹き淡い緑が深緑に変わっていく様は今でも故郷の一番好きな景色です。ふるさとが有って良かったと思う今日この頃です。今年も初夏にふるさと塩江を探ねる予定です。思い出すまゝにお題の「ふるさとの初夏」とばかりにはならなかった事、悪しからずです。(安原音川出身 都内町田市在住)

ふるさと塩江の夏



ふるさと会会員 崎川 修

66歳になった今、少年期の1冊の日記の奥に、日々の生活を通して感情や自らの人格形成を垣間見ることができる。というわけで、その日記にある「ふるさと塩江の夏」にタイムスリップして少年時代の記憶を蘇らせてみようと思う。1961年(昭和36年)8月、13歳の私は、塩江中学校第三教場の1年生であった。この夏一番、大ウナギ取り物帳なることが書いてある。8月7日、雨のち晴れ、少年たちが川遊びに繰り出すのは、いつもの場所「えだはん淵」(一ツ内バス停の斜め下)である。ちょうど西山地区と東山地区から流れ来る川の合流地点にあり、小さな滝と飛び込む岩場もあって冒険に富んだ自然のプールである。いつものように潜って魚を探しているとき、岩の下にある穴を覗くと、見たこともない大ウナギと目が合った。目と鼻の先である。水族館のガラス越しに見るのはわけが違う。高鳴る鼓動で苦しくなったが、対する大ウナギは静かにえらで呼吸しながらこちらを睨んでいる。これは仕留めなければと逸る気持ちを抑えて少年は夢中でモリを大ウナギに向けた。しかし、さすがにこの池の主である大ウナギは逃げてしまった。それから2日後、昼食を済ませ、同じく「えだはん淵」で水遊びをして上ろうとする時であった。川面の下にあのウナギの影を見つけた。この獲物を他のやつに盗られてたまるかと急いで家に兄を呼びに帰り、「ツキ」を手川へ入る。この大ウナギは、この兄弟たちに「わやにされ」(無茶苦茶にされという意味)、一度は水面から出されたが、腕に巻き付き、モリを外して、大きく跳ねてふたたび池に入ってしまった。しかし、しつこい2人には勝てなかったようだ。悪戦苦闘すること1時間、ついに「えだはん淵」の主を仕留めたのである。日記によると、長さ約1m位(タイヤを丁度一回りしていた)で、太さは僕の腕ぐらいあり、重さは、200匁(750g)を超える大ウナギであった。さて、大取り物の末に仕留めたこの大ウナギ、少年はその勝利の味を堪能したのかと思いきや、なんと気を良くした父によって、その酒飲み友達である塩江のラジオ屋のおっさんたちの胃袋に納まってしまったのである。さらに日記にはこう続いていた。「父はウナギを100円で買ってやると言ったにも拘らず、まだ100円をもらっていない」と。大人はいつもこうなのだ。悔しい思いもしたが、こうした経験や毎日の冒険を与えてくれたふるさとの自然が私を育ててくれたように思う。(上西一ツ内出身 都内多摩市在住)



塩中第3教場(旧上西中)



東山と西山

素晴らしい伝統と自然豊かなふるさと

ふるさと会会員 熊野 弘文

ふるさと塩江を18歳で就職のため故郷を後にしました。53年後の今、鮮明に18年間過ごした、田舎の思い出を述べさせて戴きます。ふるさとの初夏には、山間には美しい棚田が散在し緑に覆われた阿讃山脈、小川のせせらぎには蛍が生きて、綺麗な蛍火をあちらこちらで見ることができました。又、塩江町の町花である合歓の木の花が咲きほこり自然豊かな塩江に生まれた事を幸福に思っております。夏には塩江小中の共同運動場の盆踊り大会、塩江だけではなく他の市町村から、遠くは徳島より約20連の盆踊り大会で、一合蒔いた、金毘羅船々等の踊りを町民全員で楽しんでいました。又、讃岐の奥座敷として有名な花屋旅館(今は存在しません)近辺で盛大に行われた花火大会では、仕掛け花火の「ナイヤガラ」の滝は特に素晴らしかったことを覚えています。素晴らしい伝統と自然豊かなふるさとを誇りに思います。

(塩江小田出身 都内大田区在住)



ふるさとの初夏の山々

ふるさと会会員 岡本 幸江

近年にないほど今年の春は遅く、桜の花も何時となく散り初夏に向かいました。樹木の新芽もふくらみ新緑の時期となり山々の景色も変わり、何処とはなく気持ちも軽やかな季節になりました。一年を通じて暑くなる前の一番良い季節だと思います。今まであまり故郷の山々、ましてや新緑などを思い出す事が少なく過ぎて来ました。年齢を重ねてきた今、ふと！ふるさと塩江の山々を思い出されます。先日、家の近くの小さな八百屋の店先でイタドリを売っていました。都会のこんな場所で故郷の子供時代に山道で採取したイタドリ！きっとお店の方は田舎の人かなと懐かしく感じ、故郷の昔が甦りました。思えば今の時期、桜の木をくり抜きそこに塩を入れ、イタドリ、ワラビ、ゼンマイなどとオヤツ代わりに食した子供時代。そんな自然を知らない都会の子供たちが少し寂しく可哀相に思います。あと、何度ふるさと塩江の初夏の山々を見ることが出来るでしょうか。と今日思い返しています。懐かしいふるさとの山々に囲まれて静かに暮らしをしたい心境になるふるさとの初夏です。

(上西焼堂出身 大阪府富田林市在住)



上西小前の橋



相栗峠



内場ダム

山々の新緑景色と段々畑

ふるさと会会員 熊野 亜紀



約4年前からふるさと会に参加させていただいております、熊野亜紀と申します。大学卒業後の慣れない東京での生活の中、塩江に緑のある方々の集まりは私にとって、とても安らげる場所のひとつでした。また、自分が生まれる前のふるさとの話を聞ける貴重な場でもありました。しかしながらこの度、転職にて地元香川に帰ることになりました。香川での生活は高校を卒業して以来、およそ12年ぶりとなります。毎年帰省していましたが、これまではお盆や年末年始の帰省だったため、もう随分この時期のふるさとを見ていません。住んでいた頃は山ばかりでなにもなく、田植えの時期はカエルの鳴き声がうるさくて眠れない、そんな印象でした。地元を離れて生活するにつれ、あの頃は当たり前だった、山々の新緑の景色や段々畑が懐かしく思われるようになりました。特にホテルの乱舞している様子は塩江を離れてから一度も見ることはありませんでした。これからはまた毎年見られると思うと楽しみでなりません。どれも特別な景観ではないけれど、その景色を見て落ち着いたり、また明日から頑張ろうと思える、そんなふるさとがあることを今更ながら嬉しく思います。これからはふるさとにしながら、自分にできることをやっていけたらと思います。(塩江生江出身 香川県高松市在住)



田植え前の田んぼ風景



紅葉の若葉



塩江の筍



事務局よりお知らせ

- 1) 26年度個人会費納入のお願い。
¥2,500 郵便局扱い 口座記号 00150-2 口座番号 196649
加入者名(口座名) 首都圏ふるさと会
振込み用紙を同封しますので7月末迄お振込みをお願いします。
- 2) 26年度(今年度)事業は以下を予定します。
①松茸山等再生(里山)支援。地元有志(後藤さん植田さん稲田さんら)に山の管理をお願いします。秋に松茸狩りふるさと旅行を計画したいと思います。
②大好評につき昨年に続き塩江の新米販売支援を行います(特産品販売支援)希望者は事務局迄申し込みください。新米の收受とお支払いは個々でお願いします(チラシご参照)
③東京・別海ふるさと会との交流:塩江中学校スポーツ支援:ふるさと会会報発刊などです。
- 3) 塩江各小学校(上西・塩江・安原)が統合になった事により夫々廃校記念事業が予定されています。上西・塩江・安原からのご協力お願いを宜しくご依頼します。(記念誌申し込み:寄付金など)
- 4) 5月14日都内日比谷内幸町ホールでわがふるさと会会員高久由紀子さん[私のパリ]がシャンソンコンサートを開催。ふるさと会も応援。
- 5) 来春塩江小中学校の校舎完成と聞いています。塩江創立50周年記念植樹(枝垂桜)をふるさと会として過日の目録贈呈に従い実行予定します。

編集後記

本会報は、ふるさとの初夏をテーマにしました。子供のころの懐かしいふるさとの情景が思い出される皆様のご寄稿でした。有難うございました。次号は今秋を予定します。(編集人 深野裕美子)